

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。
 ※「はらまち九条の会」は会員約380名。党派をこえて会員を募集中です。年会費千円。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 102
 2009(平成21)年7月2日(木)発行



<1950(昭和25)年7月2日午前2時50分ごろ、京都の金閣寺が放火により全焼>
 ○戦争中、日本のほとんどの都市はアメリカ軍の激しい空襲をうけますが、例外として京都や奈良は空襲を免れます。しかし終戦から5年後、京都の国宝金閣寺は、寺の21歳の修行僧の放火で全焼。前年1月26日にも法隆寺金堂の壁画を失火から焼失していて、その反省から直ちに「文化財保護法」が制定されました。

私たちの声がようやく市政に チョッピリ届いたのか!

●合併で消滅していた南相馬市の「核兵器廃絶平和都市宣言」の再宣言を、私たち「九条の会」が今年二月、市長と市議会議長宛に要望書を提出してまいりました。●それから四九月、六月二十四日の市議会本会議の最終日、全会一致でこの宣言が再決議されました。今後この宣言を踏まえ、市として「日本非核宣言自治体協議会」への加入や、平和教育の推進など、積極的な活動が期待されます。

「核兵器廃絶平和都市宣言」 六月二十四日、南相馬市が再宣言

「核兵器廃絶平和都市宣言」

世界の恒久平和実現のために、核兵器を廃絶することは、人類共通の願望であり、緊急課題でもある。

核兵器は人類と地球の運命を左右するにもかかわらず、新しい軍事技術の開発が続けられている。

わが国は、世界で唯一の被爆国として、また永久に戦争の放棄を誓った国民として、人類が再び同じ過ちを繰り返さないよう、非核三原則を国是とし、平和を愛するすべての国の人々とともに、人類の安全と生存のため不断の努力を続けるべきである。

南相馬市は、日本国憲法に基づいて、核兵器の完全廃絶と軍備縮小を全世界に訴え、人類の願いである世界平和の実現を希求し、核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

平成21年6月24日

福島県南相馬市議会

◇◇オバマ演説以来、今世界の趨勢ですが「宣言」の各新聞の報道のようす◇◇

**核兵器廃絶決議
 全会一致で可決**
 南相馬市議会閉会
 南相馬市の六月定例議会は二十四日、最終本会議を開き、議員提出の核兵器廃絶平和都市宣言に関する決議を全会一致で可決した。非核をうたう宣言は旧原町市が昭和六十年、旧鹿島町が同六十年、旧小高町が平成四年、旧小高町が平成四年

年にそれぞれ議決していたが、合併後は宣言を引き継いでいなかったため新市として新たに宣言をまとめた。北朝鮮が五月に核実験を強行したことへの抗議決議も可決された。最終本会議では、二千八百六十六万円の一般会計補正予算など追加提出を含む十六議案を原案通り、可決、同意し、閉会した。

「核兵器廃絶」を3年ぶり再宣言
 南相馬市は24日の6月定例市議会で、戦争のない社会の実現を訴える「核兵器廃絶平和都市宣言」を可決した。同趣旨の宣言は合併前の旧3市町でも行われていたが、2006年1月の新市発足と同時に失効しており「再宣言」となった。宣言は「憲法に基づき、核兵器の完全廃絶を世界に訴え、平和の実現を希求する」との内容。議員提出され、全会一致で可決した。同市によると、核兵器廃絶などに関する宣言は合併前の原町市、鹿島町、小高町で1985〜92年の間に議決していたが、南相馬市の誕生に伴い消滅。旧原町市の市民団体などが、再度の宣言を要望していた。

「河北新報」
 「宣言」の翌6月25日付の各紙
 「朝日新聞」福島
 「福島民報」
 「福島民友」

16議案可決し閉会
 南相馬市6月議会
 南相馬市の6月議会は24日、一般会計補正予算案や追加議案など16議案を原案通り可決、同意し閉会した。補正額は2866万円で、主な歳出は地域介護・福祉空間整備等補助金2350万円など。北朝鮮の核実験強行に対する抗議決議が議員提出され、可決した。また追加提案の人権擁護委員の人事案4件も同意した。

合併新市として「非核」宣言可決
 南相馬市議会
 旧小高、鹿島町と旧原町市の議会が議決していた「非核宣言」が、3市町合併で南相馬市誕生後に再宣言されず無効となっていた問題で、同市議会は24日の市議会本会議で議員提案の「核兵器廃絶平和都市宣言に関する決議」を全会一致で可決した。

6月24日の南相馬市議会本会議では再「核兵器廃絶平和都市宣言」と同時に、下記のような「**北朝鮮核実験抗議**」が決議されました。

北朝鮮の核実験強行に対する抗議決議

北朝鮮は2009年5月25日、2回目の核実験を強行した。これは明らかに国連決議や六者会合共同声明、日朝平壤宣言に反するものである。平和と安全を希求する我が国のみならず、北東アジア及び国際社会に対する重大な脅威であり、断じて容認できるものではない。また、米国大統領が世界から核兵器を廃絶することを訴えている中で、核兵器廃絶の国際的機運をも踏みにじるものである。

南相馬市は、「核兵器廃絶平和都市宣言」を決議し、唯一の被爆国民としての核兵器の恐ろしさ、被爆者の今なお続く苦しさをかみしめ、この地球上に再び広島、長崎のあの惨禍を繰り返してはならないと核兵器廃絶を世界の人々に訴え、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を住民生活に活かし、子々孫々に継承することを決意した。

今回の北朝鮮の核実験の強行は、住民生活の平和と安全を脅かし、重大な不安を与えるものである。よって、南相馬市議会は、これに強く抗議し、核実験及び核兵器に関わる一切の開発を今後は絶対に行わないことを強く求める。

日本国政府においては、北朝鮮に対して核兵器開発の中止と核の放棄を求めるよう国際社会と協調して断固たる措置をとるとともに、国際的な協議の場で解決していくことを強く求める。さらに、国民、市民の不安を払拭するため、環境面への影響の有無を十分調査し、情報提供するなど適切な対策を講ずるよう求める。

以上決議する。

平成21年6月24日

福島県南相馬市議会

サイレンと同時に 黙祷を!

8月6日 8時15分

(広島原爆投下の時刻)

9日 11時2分

(長崎原爆投下の時刻)

15日 正午(終戦の日)

南相馬市では毎年、上記の3日に慰霊のサイレンを鳴らします。40年前の市民団体「原町憲法を守る会」の働きかけから始まりました。どこでも、静かに心をこめて鎮魂の黙祷を!

核兵器廃絶をめざす映画

GATE(ゲート)

<104分> 出演:マーティン・スコセッシ 日本語ナレーション:松嶋菜々子 監督:マツ・テイヤ
(世界核兵器解体基金代表)

主催:グローバル・イン・原町
9月下旬、原町区・朝日座で上映の予定です!

日本で世界で広がる、核兵器廃絶の訴え <新聞記事より>

○「日本は原子力の平和利用と核不拡散を両立しているモデルともいえるべき国だ。その経験を世界のために役立てていきたい」「(オバマの)核のない安全な世界を、という訴えは響いたが、まだ言葉に過ぎない。これを実績にするのが私たちの役目です」

国際原子力機関(IAEA)事務局長 **天野之弥**さん(「核の番人」として7月2日当選)



○「日本政府は「国民は戦争の犠牲を等しく受忍すべきだ」という戦争被害受忍論を盾に、被爆者に国家補償をしていません。国の戦争責任を追及し、補償を求める被爆者の運動は、国民が戦争を拒否する権利を打ち立てようとするものなのです」九州大院准教授 **直野章子**さん(6月27日付『朝日』)

○「「原爆投下の責任を」と言うと米国人はすぐパールハーバーを持ち出して反論する。だがあれは軍事施設への攻撃。広島、長崎では老人から赤ん坊まで何十万人も殺されたんだ。日本の現状が心配だ。核実験をした北朝鮮は愚かだが、政治家が「先制攻撃すべきだ」とおおるのは危ない。戦争への流れは、気がつけば大河になっている」漫画家 **中沢啓治**さん(6月24日付『朝日』。自らの被爆体験マンガ『はだしのゲン』の作者)

○「被爆者は平均年齢が75歳を超えており、一刻も早い核廃絶の実現を望んでいる。2020年までに核廃絶を実現させるべきだ」広島市長 **萩原忠利**さん(6月21日、モスクワでの「核不拡散・核軍縮国際委員会」にて)

○「オバマ大統領は被差別経験を持つ黒人であり、大衆の出身です。核廃絶の決意は、駆け引き材料ではなく、生い立ちに根ざした人権感覚だと信じています。為政者がまず、核兵器の使用は最悪の人権侵害だと理解すること。それが「核を二度と使ってはならない」という認識を全人類が共有する一歩だと思います」被爆医師 **肥田舜太郎**さん92歳(6月25日付『朝日』)

「オバマさん、広島に来てください」 三宅一生さん、7歳の被爆体験も初公表

○「7歳の時広島で被爆し、赤い閃光を目撃。黒い雲があがり人々が逃げまどう姿が今もまぶたに焼き付いている。母親は被爆の影響で、3年もたたないで亡くなった。レッテルを張られるのを恐れ、広島についての質問も避けてきた。オバマ氏が核廃絶に言及したことで、閃光を経験した一人として発言すべきと考えた。オバマ大統領が広島を訪れれば核のない世界へのシンボリックな第一歩になる」

……世界的デザイナー **三宅一生**さん71歳(7月16日付『毎日新聞・朝日新聞』)

